

第3章 雪国いしかわのまちづくり

1 雪に強いまちづくり

(1) 雪に強い住環境の整備

雪に強いまちづくりにおいて、敷地内から近隣（街区程度）、地区レベルにおいて想定される課題とその対策、留意点を整理すると下表の通りです。

但し、ここで整理したことは、広く県民を対象として一般的な事柄であり、運用にあたっては、気候条件や周辺の環境条件などを十分に考慮した上で必要な事項を選択することが求められます。

雪に強いまちづくりは、新たに住宅地を整備する場合を除き、既成市街地においては、長期にわたる計画的な取り組みが必要となり、そのために要する地区住民等の理解と協力、経費や労力の提供による負担軽減など、様々な要因が関連します。

地区住民の取り組みに対する行政や事業者等との連携を密に図りつつ、計画的で円滑な取り組みの継続が求められます。

■ 雪に強い住環境整備のポイント ■

	敷 地 内	近 隣	地 区
積雪・融雪・氷結などで想定される被害の例	<ul style="list-style-type: none"> 積雪による外溝、植栽の破損 積雪や吹き溜まりによる通行障害 	<ul style="list-style-type: none"> 降積雪による通行障害 落雪による隣地・隣家への影響 	<ul style="list-style-type: none"> 降積雪による通行障害 雪捨場の確保 ゴミステーション、防火水槽等の機能障害
対 策	<ul style="list-style-type: none"> 雪処理空間の確保 雪囲いなどの暴風雪空間の整備 風対策のための生垣等の配置 住戸平面や住棟配置等による吹き溜まりスペースの発生抑制 	<ul style="list-style-type: none"> 除雪車両、機器の使用が可能な道路幅員の確保 隣地、隣家の配置・形状等を考慮した隣棟間隔の確保や屋根形状の選択 	<ul style="list-style-type: none"> 消融雪装置の整備 流雪溝（地形、水量等の条件）の整備 公園や緑地等のオープンスペースの確保 ゴミステーション等における屋根囲い
留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> 一定の効果を敷地内の雪処理で期待する場合、広い敷地と適切な住戸・住棟の計画が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行空間の除排雪を行い易い施設、実施体制等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 雪処理後の溢水対策 消水の水源確保（地下水の枯渇等の影響）

(2) 雪に強いまちづくりに向けた役割分担

雪を克服するまちづくりは、下図の役割分担にみられるように、住宅レベル、地区レベルそれぞれで雪に対して強くなければならず、このことは、自主防災面でも機能することが期待されます。

そのためには、雪に対する行政及び住民、住民一人ひとりの役割分担を明らかにすることが必要となります。

とくに、個人の住宅の屋根雪処理は、家族構成や「いざ」という時の近隣との連携の可能性、さらには、住宅の老朽度や隣地、町内会などの除排雪体制など、それぞれに適切な方策を講じる必要があります。

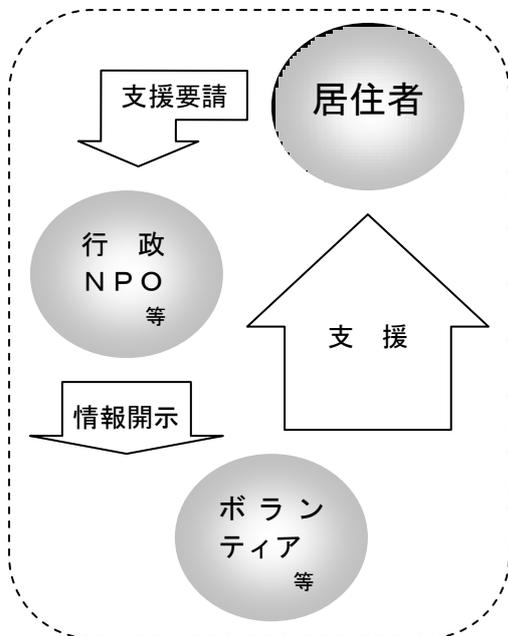
また、これらのことを合理的に運営するに当たっては、町内会活動とそれに対する情報の伝達システムのあり方（情報技術の活用等）などを整備・強化することも重要となります。

【雪に強いまちづくりのポイント】

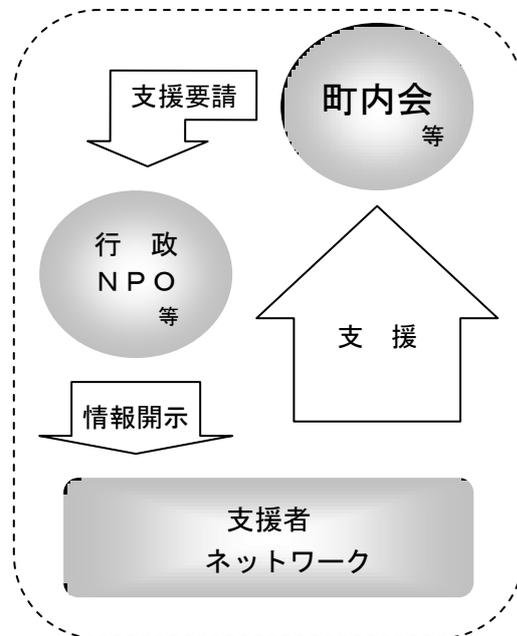
- ①各敷地内の雪はその敷地内で処理できるよう、隣棟間隔に留意しましょう。
- ②生活道路や細街路は住民の手で行うというルールを確立し、幹線道路及びそれに類する道路へ除排雪はしないようにしましょう。

■ 耐雪都市づくりの役割分担 ■

《 住宅レベルの屋根雪処理 》



《 地区レベルの雪処理（除排雪等） 》



(3) 雪と住民組織

近年の都市部におけるスプロール化現象^{*1}の進行は、都市中心部における高齢化と人口減少をもたらすことで、これまでに一般的であった町内会一斉による街区の除排雪作業を困難とし、今後、さらに大きな問題となることが予想されます。

雪に対する組織の強化は、このような都市部の市街地や一方で高齢化の進む農山村を含めたコミュニティで早急に対応すべき課題と考えられます。

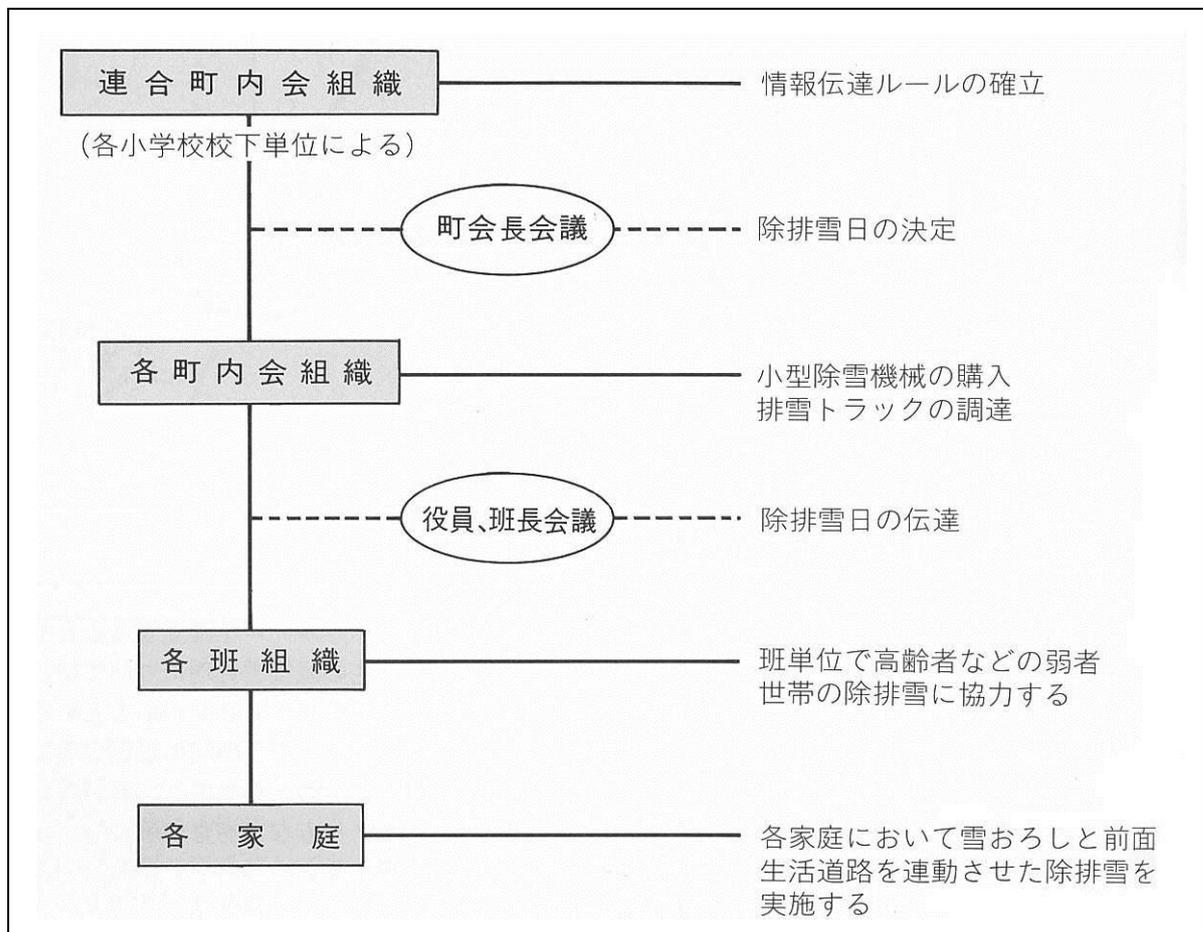
そこで、今後の雪に強いまちづくりを考えるにあたり、例えば、町内会組織に除排雪システムを組み込んだとすると、下図のようになります。これまでも多くの地域でこのような組織を活用して地域一斉の除排雪作業が行われています。

今後は、こうした組織を中心としつつ、さらに除排雪作業等に協力してもらえる学生ボランティア^{*2}等の活用など、除排雪ルールの明確化とともに、自主防災組織としても機能するコミュニティ単位の柔軟な組織づくり強化など、きめの細かい除排雪の体制づくりが必要となるでしょう。

*1 スプロール化現象：都市が“無秩序に拡大”（sprawl の本来の意味）する現象

*2 学生ボランティア：地元町会等と学生ボランティア団体が、行政の仲介で除雪作業を行なう事例は、年々、増加しています。

■ 町内会組織による除排雪システム・イメージ ■



■ 除排雪作業で活躍する学生ボランティアの活動 ■

平成 20 年 1 月 19 日
北國新聞

学生助っ人 初出動

長町地区で八日、地元団体と学生等雪かきボランティア協定を結ぶ学生団体（O-N-E X-T）（コネックス）長町サポーターズの五人が

雪かきボランティアを行った。暖冬だった昨シーズンは学生の出番がなく、初の活動日となったこの日、学生らは歩道などの除雪にさやかな汗を流した。

雪かき 汗かく

「地域のお役に」

年度ごとに締結している。今年度は七組が協定を結んだ。同日は好天に恵まれたが、前日からの雪が残っていたこともあり、

同協定は地域ぐるみの除雪を支援するため、金のメンパーからスコップの付いた、地元町会、プロの扱い方や通学路など、学生らのボランティアを確認しながら、大野庄用水沿いの約四百

「予行調査を兼ねて実施された。学生は受け入れ側の「金澤」

雪かきに汗を流す学生
＝長町1丁目



平成 20 年 2 月 20 日
北國新聞



雪かきに汗を流す生徒＝内光寺1丁目

雪かきは任せて

野田中にボランティア隊

校下のお年寄り宅を訪問

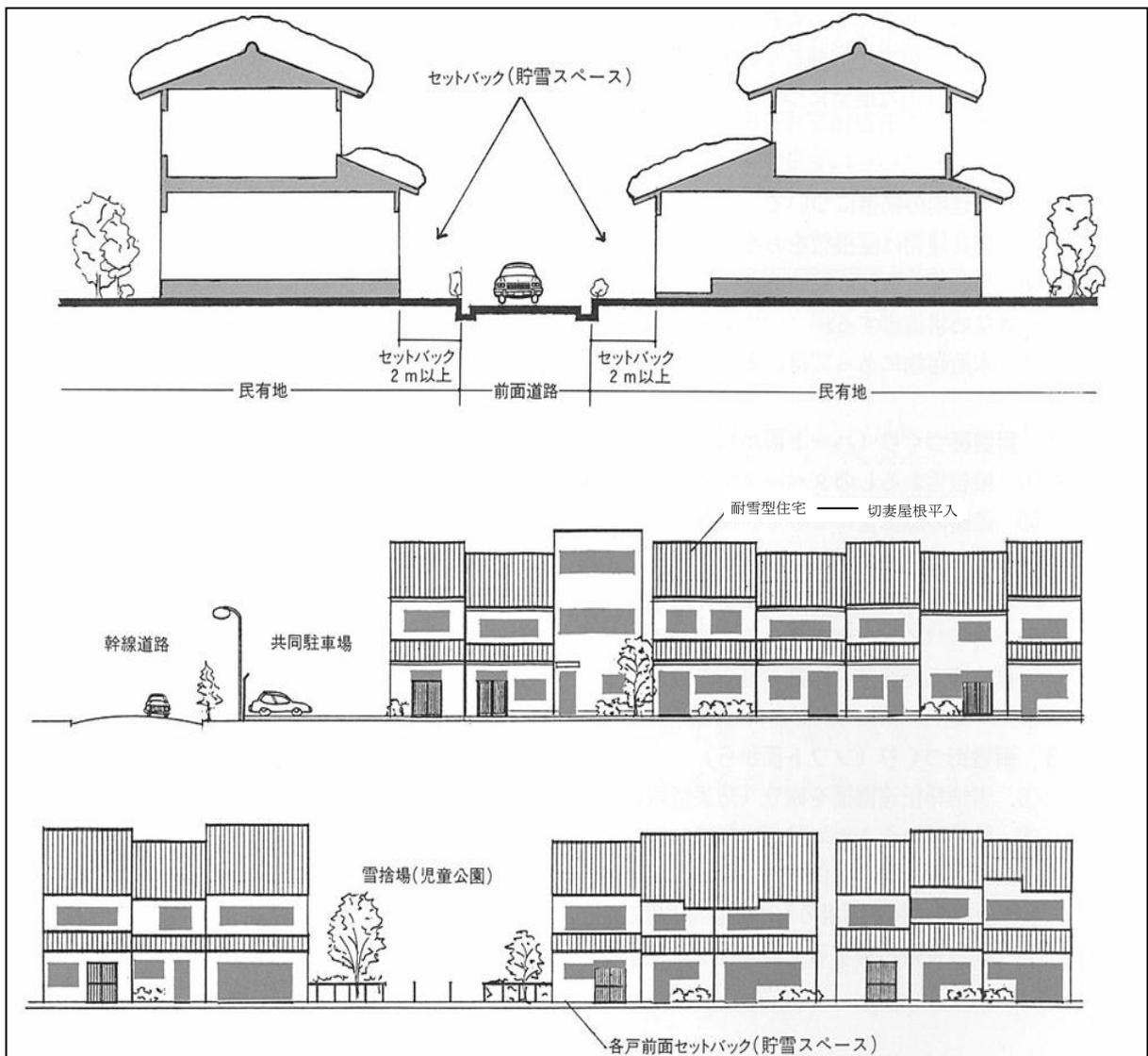
野田中生徒会が、雪かきボランティア隊「W E 静江さん宅では、DO SNOW VO 生徒十人が玄関前の除 LUNTER」を結成、雪に取り組んだ。スコップで手際良く雪かき光寺地区の十一軒を訪ねる生徒の姿を見て、懸命にスコップで雪いた吉田さんは、「三かきに助んだ。年前までは自分でできお年寄りを助けるだけ、もう無理。本ため、生徒会が昨年十二当にありたい」と話し、月にメンパーを呼び掛けた。長橋明副会長は「地域には独り暮らしの高齢者が多く、雪が降ると大変な状況を見ることが多い。雪かきボランティアは、火、金曜に出勤来年も継続していく。

(4) 雪に配慮したまちづくり協定の活用

雪に配慮したまちづくり協定は、堆雪スペースの計画的な確保や有効活用など、雪に強い街区形成を進めるために、建築物の敷地や位置などについて、必要な措置（ルール）を盛り込んだ制度です。例えば、街路計画を踏まえて、建築物の壁面を一定距離（例えば、2 m程度）後退（セットバック）させることや建物の屋根の向き、コミュニティ単位における雪下ろしの手順などを定めることなどが挙げられます。

このようなまちづくりに関わるルール（協定）は、住民の主体的なまちづくりへの参画という意味で極めて有意義な制度といえますが、一方で私権を制限することも懸念されるため、居住環境の向上を図るために、関係する住民や行政等の理解と共通認識を高めるとともに、例えば、面的な整備が可能な諸事業等との一体的な取り組みが望まれます。

■ まちづくり協定のイメージ ■



2 雪に親しみ・活かすまちづくり

(1) 雪に親しみ活かすまちづくりの推進

雪に親しみ活かすまちづくりは、冬の厳しい自然環境の中にも多くの魅力が存在すること、さらには雪の良さを発揮する知恵を有する人々が、楽しみながら取り組むことで成功します。

とくに、イベントの開催にあたっては、継続開催の視点で「身の丈」に合った取り組みとすることが必要であるでしょう。

また、これらのことを誰もが納得して実施していくためには、非営利の活動主体を行政が支援できる環境づくりも重要と考えています。

【雪に親しみ・活かすまちづくりのポイント】

- ①取り組みのコンセプトを明確にしましょう。
- ②取り組みのコアとなる人材やその支援者・団体等を含めて地域に認知されるように取り組みましょう。
- ③取り組みに伴う負担が特定の個人に集中しないように配慮しましょう。

(2) 親雪・利雪のイベント

雪を活かしたイベント例では、企画から運営、PR等の一連の取り組みを業者に頼らず、地域住民が主体となり、時に来訪者との交流も楽しめる体験型が多く見られます。

開催されるイベントが地域一体で取り組まれるほど継続し、イベントが冬の風物詩として定着する例も少なくありません。

本県でも雪を活かした多くのイベントがみられますが、定着のポイントは、取り組み内容が単純明快であること、地域のコミュニティ醸成につながることで、地域特性を感じさせること、行政だけでなく、住民や事業者等の役割分担が明確であること等が挙げられるでしょう。

今後とも、雪を活かしたイベントを通じて、関わる人々の感動と自信、結束がより強まることを期待したいと思います。

■ 白峰雪だるままつり ■



(3) 楽しみながら雪を知る工夫

豪雪時の死亡または負傷は、その大半が除雪作業中に起こる事故であるといわれています。他県でも屋根雪処理をボランティアで支援する取り組みが行われていますが、現実問題として、非積雪地から訪れるボランティアに対して屋根雪処理作業を依頼することは、未経験であるがゆえに余計な手間を要したり何よりも危険が伴うという理由から、派遣ボランティアの積極的な活用はなされていません。

一方で、地元のボランティアの受け入れ体制の不備もあり、支援する側とされる側をうまくつなぐ手だてが見つからないことも多いようです。

そこで、今後は、経験によって伝承されてきた除雪の技や安全確保の知恵などの暗黙知を集約し形式知として残すこと、高齢化の著しい豪雪地域における除雪作業の安全を確保することを目指し、「実践重視」「知恵の集約」のための取り組みとして、楽しみながら雪に向き合う生活の知恵を身につけることが有効となるでしょう。

■ 雪かきボランティア ■



資料：NPO法人中越防災フロンティア

①雪かきガイドブック

雪かきガイドブックは、除雪作業中の人的被害を軽減するため、主に雪かき初心者を対象に、雪処理作業の安全確保に関する要点について、イラストを多用するなど、わかりやすくまとめた読み物です。

みなさんがお住まいの地域の実情に合わせた「雪かきガイドブック」を作られてはどうでしょう。

②「雪かき教室」の開設

先に挙げた「雪かきガイドブック」を活用し、実践を伴う機会を提供するため、例えば、みなさんの地域で「雪かき教室」を開設してはいかがでしょうか。

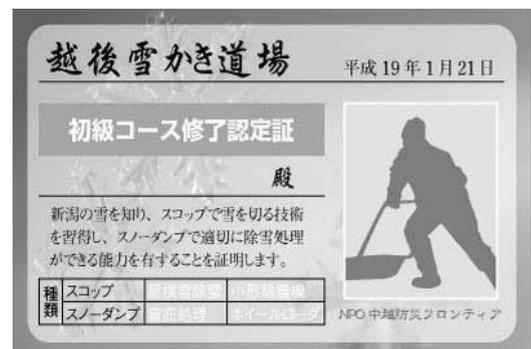
こうした機会は、遊び感覚で雪かきの実技レベルを高めるものであるとともに、地域住民と来訪者とのコミュニケーション機会として有効です。いざという時、雪かきに来てくれる人たちの顔が思い浮かぶことは、心強いものです。

■ 取り組み事例の紹介 ■

新潟県で実施されている「越後雪かき道場」は、主に雪に不慣れな初心者を対象に、概ね1泊2日の日程で開催されます。

コースは初級から上級まであり、「雪かき道場指南書」に基づく座学、地元コーディネータ(指南役)による実技指導等を受講し、各コース修了者に対して、名刺大の修了認定証が発行されます。

詳しくは「越後雪かき道場」実行委員会(事務局 NPO法人中越防災フロンティア)までご確認ください。



資料：NPO法人中越防災フロンティア

(4) 雪の冷気を活かした農産物保存や地域冷房システムの構築

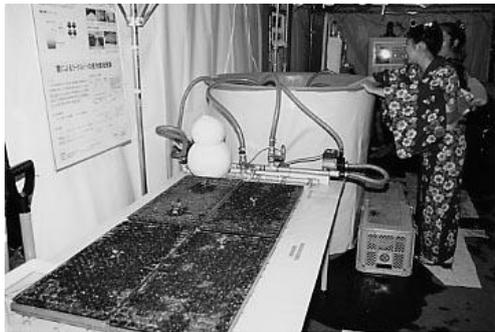
本県では、ほとんど取り組みが進んでいませんが、全国的には、雪の冷気で米や野菜、花きの備蓄、公共施設等の冷房設備への活用に取り組む例は少なくありません。

農産物を例にとると、従来、農家等で作られる自家野菜は、一定の低温が保たれる雪の中や室温の低い地下室・納屋で保存しながら一冬を越していましたが、春になると外気が上昇して、どうしても玉ねぎやジャガイモが芽を出し、品質が落ちてしまうことから捨てる農家が多かったようです。

しかし、雪室を食料の大型冷蔵庫として利用することで、外気が上昇しても一定の温度と湿度で農産物を新鮮に保つことができ、保存が長く効くことから、冬眠作物を捨てる無駄もなくなるようです。

このように、今後は、雪を活かした暮らしの環境向上に向けて、全国的な事例やデータ等を収集・整理しつつ、本県においても雪を活かした様々な技術の実用化が待たれます。

■ 住民に対する親・利雪のPR活動（北海道・沼田町） ■



資料：沼田町HP